

平成 27 年度 第 3 回 大田区多文化共生推進協議会 議事録

1. 日時：2016 年 2 月 25 日（木）18：30～20：30

2. 場所：mics おおた教室

3. 出席者：委員 11 名／事務局 6 名／傍聴者 1 名

4. 議事

テーマ：「より多くの外国人住民に地域活動に参加してもらうためには」

【地域活動の定義について】

（事務局案）

「地域で開催されるイベント・お祭り・防災訓練・防犯パトロール等の活動。自治会・町会や区役所（行政）が主催者であり、旅行者ではなく地域住民を対象にしたもの」

・主催者には自治会・町会や区役所だけでなく、NPO などの区民団体も含めた方がいい。
⇒NPO などの区民団体も主催者に含め、検討を進める。

【イベントの性格について】

（娯楽的なイベント／地域の関係づくりのイベント）

- ・イベント・お祭りは娯楽的な側面の強いものであり、防災訓練や防犯パトロールなどはコミュニティでないとできない日々の生活に関するものだ。一回の参加者数を重視するのか、長期的な成果を重視するのかによって力を入れるべきイベントの性格も変わってくる。
- ・地域づくりという観点からいえば、地域の関係づくりに寄与するイベントの方が重要である。
- ・楽しいイベントから入ってもらって、そしてゆくゆくは防災訓練のような地域関係を深めるイベントにも参加してもらうことを目指すのがいいのではないか。

【イベントの内容について】

（曜日・時間設定）

・全体の約 87%が定住者、または様々なビザを持って仕事をしている人であり、留学は 6%

程度しかいない。大多数の就労者は土・日・祝日しか参加できない。イベントの曜日・時間帯に考慮すべきではないか。

- ・曜日は土日祝もしくは夏休みなどが多い。10時開始というのは早いかもしれないが、運営側に高齢者が多いので午後遅くまでかかると疲れてしまう。

(イベント内容の工夫)

- ・「見られる・食べられる・体験できる」といった五感を刺激するもので、メディアによっては得られない「ここに来ないと楽しめない」というイベントならば、宣伝に力を入れなくとも口コミで人は集まってくるはずだ。宣伝方法よりもイベントの質を重視すべきであると思う。
- ・良いものがあれば国籍や年齢とは関わりなく皆が良いと思うのではないか。たとえば言うならば、日本に旅行にきた中国人向けの刺身ではなく、皆が良いと思う刺身ならば日本人だろうが外国人だろうが美味しいと思うのと同じことである。
- ・イベントには何か参加することのメリットが必要。たとえば日本料理教室のイベントを開催するとしたら、大田区で一番の日本料理の先生を講師として招待するなどの工夫が必要である。そういうメリットがあれば、皆お金を払ってでも参加するのではないか。

(定住者向け／万人向け)

- ・中長期的な定着を目指すのであればイベントの内容は内容のあるものに寄せていくのがよいのでは。滞在目的が勉強や技術などの層を対象に、語学のイベントや料理教室を開催するなど。
- ・定住者向けのイベントであれば日本で生活するのに必要なスキルを学べるイベントがあればいいのではないだろうか。
- ・定住者をターゲットとして中長期的に地域の人材を育てることが目的となると、娯楽系のイベントは外れて、防災訓練など、悪く言えば「熱意をもって参加したい訳ではない」イベントになってくる。地域人材の育成となるととてつもなく魅力的なコンテンツというのは出てきにくくなるのではないか。
- ・定住者かどうかは後になってわかること。最初から定住しようと思って住む訳ではない。「大田区に住み続けたい」と思わせるためには魅力ある娯楽イベントが必要。定住者かどうかを分けるのではなく、最初は全員にとって魅力あるイベントにしていけばいい。

【イベントの周知方法・ターゲットについて】

(学校やエスニック料理店の活用)

- ・近隣の学校を活用して周知していくのはどうか。
- ・防災訓練でも毎回学校を通じてや地域の掲示板などで周知をしているが、実際に参加し

てくれるのはほんの一部しかいない。

- ・地域にある外国語のレストランを活用するなり、学校の保護者仲間にアプローチできるような方法を取った方がより参加してもらえるのではないかな。

(『大田区多文化共生実態調査』より)

- ・『多文化共生実態調査』を分析したところ何らかの地域活動に参加したいという外国人区民が全体の70%である。地域活動に興味があると回答した人の多い属性は年齢でいうと20～30代、職業は学生などわりと時間に余裕のある人、家族構成としては友人と同居もしくは単身、滞在目的としては自主的な目的(勉強・就労等)、ということが言える。国籍としては中国、居住地区としては入新井・千束・蒲田西が高いが、地域や国籍は結果的なものではないか。若くて時間に余裕がある人が、結果的に中国籍が多かったり、特定のエリアに集中したりしているのではないかな。
- ・全体の70%が地域活動に興味を示している以上は、狭いところにフォーカスするよりも全体に周知していくべきではないかな。ただし、その初期ターゲットとして年齢・職業・家族構成・滞在目的などを設定することは有効だと言える。
- ・①認知②理解③興味④参加の4つのステップで言うと①認知が不足しているのではないかな。対象によって認知の仕方が違う(学生なら学校から周知、主婦ならスーパーで周知など)ので、ターゲットをどこにするかで周知方法を選ぶ必要がある。

(イベントのターゲット)

- ・楽しいから来るだけでなく、将来的に大田区の地域の中で責任ある活動を担ってくれる方をつのっていくべきではないかな。数だけそろえて打ち上げ花火で終わってしまっただけは意味が無い。長い目で見れば地域活動に参加してくれそうな外国人区民を集めるのがいいのではないかな。
- ・学生は卒業・就職・結婚すると地域の外に出て行ってしまいうので、地域の人材として育成していくことは難しい。その点では定住している大人・親・ファミリーをターゲットにした方が効率的である。
- ・地域活動に興味を持っている外国人区民をターゲットにするのか。それとも地域活動に興味を持っていない外国人区民をターゲットにするのか。
- ・ターゲットもイベントの内容も目的次第で変わってくると思う。単に参加者を増やすことが目的なのか、定住者をターゲットとして中長期的に地域の人材を育てることが目的なのか、それ次第だ。大田区として「何を達成したいのか」による。

(その他)

- ・新しく転入してきた外国人住民は区役所に必ず住民登録に訪れるので、その場でメールマガジンに登録できるようにしたり、イベントの周知をしたりできるようにすればよい

のではないか。

【その他】

- ・大田区にも在日本大韓民国民団の支部がある。民団の主催イベントに大田区民が参加する
ような交流の形があってもいい。